

保護者のみなさまへ



教育長室の胡蝶蘭が、6月1日に学校（園）を再開した直後に満開となりました。

あれから2ヶ月以上経ちますが、今もほとんどの花が咲いたままです、まるでコロナ禍の収束を心待ちにしているように。

さて、この間、新型コロナウイルス感染拡大防止対策にご理解とご協力をいただき心から感謝申し上げます。

また、学校（園）再開後は、熱中症対策はもとより、例年にはない新しい生活様式に基づく学校（園）での生活、カリキュラムの変更、行事等の中止や延期にご対応いただき重ねて感謝申し上げます。

短かった夏休みが終わり、今日から2学期が始まりましたが、子どもたちにとってどのような夏休みだったでしょうか。有意義な毎日だったでしょうか。

私事ですが、昨年の今頃は様々な行事やイベントにご招待いただき土日もしっかりと過ごすさせていただいておりましたが、今年は収束しつつあると思われたコロナ禍が、7月初旬から再燃したことから、仕事以外はほぼ自宅で過ごしております。

そんな折、書家藤本玲舟先生からお声掛けいただき、三十数年振りに墨を磨りました。墨の香りや磨り音で心が落ち着き、大変心地よい時間が流れていきました。もっともその後は筆を手に悪戦苦闘しましたが。



全国的に感染者数が再び増加しており、収束までにはまだ時間が掛かると考えられます。

6月1日の学校再開後、子どもたちは新しい生活様式による制約を甘受するだけでなく、様々な取り組みに自ら果敢に挑戦してくれています。過度な不

安や根拠のない自信ではなく、「正しく恐れる」の本質を心で感じ取り、行動してくれています。

日本では「自己責任」という考えが諸外国より強いと言われていています。自分が新型コロナウイルスに感染すれば、自分自身の至らなさを厳しく責めます。他者が感染すれば、「感染するような行動を取った人の責任である。」と責めます。時としていわゆる犯人探し、誹謗中傷やいじめへと発展して行きます。

いつ自分が感染するか分からないという不安と、感染したときに周りに迷惑を掛けるという気持ちから、国民一人一人が自らを律しながら自粛していることの裏返しであると思います。

以前のメッセージで、『私は、日頃から「学校（園）はご家庭以外では一番安全・安心な場である。」との信念のもと教育行政を進めています。しかし、この度のコロナ禍におきましては、「学校（園）での通常の教育活動は感染のリスクをとまなう。』』とお伝えしました。

学校（園）再開後は、各学校（園）において、このリスクを最小限に抑える取り組みを進めて参りました。特に、市独自の感染防止マニュアルを作成し、ウイルスを持ち込まない・持ち出さないための取り組みや、3つの密（密閉、密集、密接）を避ける取り組みを徹底してきました。今後も各校（園）では幼児児童生徒の安全・安心を最優先する中で教育活動を進めて参ります。

なお、万が一、教職員や幼児児童生徒が感染者になった場合や濃厚接触者になった場合は、保健所や関係各機関との連携のもと、人権に配慮しながら迅速かつ適切な対応及び情報発信に努めて参りますので、けっして噂に惑わされたり、過度な自己責任論に終始されたりすることがないようにお願いいたします。

今、みなさまが不安を感じておられることは当然です。

教職員もまた不安を感じておりますが、この不安を払拭すべく教職員は今できることに全力で取り組んでいます。

早期にコロナ禍が収束し、一日も早く終息することを祈念しながら、改めましてみなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

今日（8月24日）現在、母を預かっていたいでいる施設を訪問することはできません。5月1日に伝えるはずだった「Happy Birthday!」もまだです。残念で仕方ないですが、施設のコロナ禍に対する姿勢と徹底した取り組みには学ぶべきことが多くあります。

だからもう少し待ちます、母の笑顔を見に行くのは。

令和2年（2020年）8月24日
京田辺市教育委員会
教育長 山岡 弘高